

2021 年度 シラバス (授業要覧)

表現学科 演劇放送フィールド

1 年生



科 目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使った表現の力を養う。		
到達目標	共通語を理解し、正しく使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現出来るように、的確な言語表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 外郎売を最終的な評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	授業概要の説明・自己紹介	教科書を読んでおく	
2.	「話す」「聞く」「書く」「読む」の理解	教科書を読んでおく	
3.	呼吸と発声・発音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
4.	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
5.	「カ行」「ガ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
6.	「サ行」「ザ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
7.	「タ行」「ダ行」「ナ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
8.	「ハ行」「バ行」「パ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
9.	「マ行」「ヤ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
10.	「ラ行」音	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
11.	「ワ行」「撥音」「促音」「拗音」	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
12.	文章を読む	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
13.	共通語のアクセント①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
14.	共通語のアクセント②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
15.	イントネーション	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
教科書	「日本語の発声レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度30%、授業内発表40%、外郎売30%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	日本語表現法	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	話し言葉としての日本語を五十音から学び、言葉を使った表現の力を養う。		
到達目標	共通語を理解し、正しく使用できるようになる。 より多くの人に自分の意思を表現出来るように、的確な言語表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 外郎売を最終的な評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	プロミネンス	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
17.	アーティキュレーション①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
18.	アーティキュレーション②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
19.	アーティキュレーション③	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
20.	外郎売①	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
21.	外郎売②	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
22.	外郎売③	教科書を読んでおく。 授業内容の確認。	
23.	まとめ		
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書	「日本語の発声レッスン」		
参考書	「NHKアクセント辞典」		
学習成果の 評価方法	受講態度30%、授業内発表40%、外郎売30%		
特記すべき 事項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	表現研究 I	開講時期 履修方法	1 年前期集中 選択、専門科目
担当者	山口剛一郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	650年以上、途絶えることなく演じられてきた日本を代表する舞台芸術である能について学び、実際に謡と舞の表現を学ぶ		
到達目標	袴を正しくつけ、「高砂」の謡と舞を実演することができるようになる		
学習成果の 評価基準	最終日の実演にて①正しく袴をつけていること、②大きな声で謡を謡うこと、③正しい姿勢で舞うことを評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	能について①能楽の歴史、流儀、番組、能舞台について	テキストを読み予習する	
2.	能について②袴のつけ方、扇の扱い方	テキストを読み予習する	
3.	「高砂」の解説	テキストを読み予習する	
4.	「高砂」の謡、舞習得①	テキストを読み予習する	
5.	「高砂」の謡、舞習得②	テキストを読み予習する	
6.	「高砂」の謡、舞習得③	テキストを読み予習する	
7.	「高砂」の謡、舞習得④	テキストを読み予習する	
8.	「高砂」の謡、舞習得⑤	テキストを読み予習する	
9.	「高砂」の謡、舞習得⑥	テキストを読み予習する	
10.	「高砂」の謡、舞習得⑦	テキストを読み予習する	
11.	「高砂」の謡、舞習得⑧	テキストを読み予習する	
12.	「高砂」の謡、舞習得⑨	テキストを読み予習する	
13.	公演に向けての役付け	テキストを読み予習する	
14.	公演リハーサル	テキストを読み予習する	
15.	公演	テキストを読み予習する	
教科書			
参考書	能楽初心者向け冊子「学んでみよう能・狂言」120円/冊（能楽協会）		
学習成果の 評価方法	授業態度：50％ 到達度の確認：50％		
特記すべき 事項	足袋、浴衣、袴、扇を持参すること 能楽師として20年以上の実務経験		
質問・相談 の 受 付			

科 目	身体表現研究 A－I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、動くことへの興味と実践を追求。		
到達目標	音感の向上や身体の可能性を広げる。		
学習成果の 評価基準	授業中の態度と課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	バレエの歴史 ウーベルト（アンドゥオール）について	バレエの歴史	
2.	腕のポジション 足のポジション 方向について バレエ用語	前回の復習	
3.	バーレッスン1	前回の復習	
4.	バーレッスン2	前回の復習	
5.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール3	前回の復習	
6.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール4	前回の復習	
7.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール5	前回の復習	
8.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール6	前回の復習	
9.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール7	前回の復習	
10.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール8	前回の復習	
11.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール9	ポール・ド・ブラの予習	
12.	前期のまとめ ポール・ド・ブラ	ポール・ド・ブラの予習	
13.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール1 アレグロのパへのアプローチ	前回の復習	
14.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール2	前回の復習	
15.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユール3	前回の復習	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （50％） 授業内課題 （50％）		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することは望ましいが、正しく基礎をわきまえて行い、怪我に注意すること。		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	身体表現研究 A－I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	バレエのルーツに関する知識及びアカデミックなレッスンを初心の青年層を対象として指導し、動くことへの興味と実践を追求。		
到達目標	音感の向上や身体の可能性を広げる。		
学習成果の 評価基準	授業中の態度と課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
16.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユ 4	前回の復習	
17.	バーレッスン ポール・ド・ブラ オウミリユ 5	アデージオとアレグロの予習	
18.	後期のまとめ アデージオ・アレグロのアンシェスマン	アデージオとアレグロの予習	
19.	まとめ	授業の振り返り	
20.	まとめ	授業の振り返り	
21.	まとめ	授業の振り返り	
22.	まとめ	授業の振り返り	
23.	まとめ	授業の振り返り	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （50％） 授業内課題 （50％）		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することは望ましいが、正しく基礎をわきまえて行い、怪我に注意すること。		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	身体表現研究B－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求		
到達目標	音感の向上や身体の活動範囲を広げる。アクター指導を前提とした実践的実技に及びます。		
学習成果の 評価基準	授業中の態度と課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	バーレッスン1	バレエに関心を持つ	
2.	バーレッスン2	前回の復習	
3.	バーレッスン オウミリユ 1	前回の復習	
4.	バーレッスン オウミリユ 2	前回の復習	
5.	バーレッスン オウミリユ 3	前回の復習	
6.	バーレッスン オウミリユ 4	前回の復習	
7.	バーレッスン オウミリユ 5	前回の復習	
8.	バーレッスン オウミリユ 6	前回の復習	
9.	バーレッスン オウミリユ 7	前回の復習	
10.	バーレッスン オウミリユ 8	前回の復習	
11.	バーレッスン オウミリユ 9	ポール・ド・ブラ・アテジオの予習	
12.	前期のまとめ (ポール・ド・ブラ・アテジオ)	ポール・ド・ブラ・アテジオの予習	
13.	バーレッスン オウミリユ 1	前回の復習	
14.	バーレッスン オウミリユ 2	前回の復習	
15.	バーレッスン オウミリユ 3	前回の復習	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 授業内課題 (50%)		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することは望ましいが、正しく基礎をわきまえて行い、怪我に注意すること。 レッスン前にストレッチをすることが望ましい。		
質問・相談 の受付			

科 目	身体表現研究B－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	齊藤 彩	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	クラシックバレエはダンスの基本であり、アカデミックなポジションを学ぶことによって美しいラインを学び、表現者として美しい立ち姿を追求		
到達目標	音感の向上や身体の活動範囲を広げる。アクター指導を前提とした実践的実技に及びます。		
学習成果の 評価基準	授業中の態度と課題の成果をもって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
16.	パーレッスン オウミリユー 4	前回の復習	
17.	パーレッスン オウミリユー 5	スダージオとアレグロの予習	
18.	後期のまとめ （スダージオとアレグロのアンシェヌマン）	スダージオとアレグロの予習	
19.	まとめ	授業の振り返り	
20.	まとめ	授業の振り返り	
21.	まとめ	授業の振り返り	
22.	まとめ	授業の振り返り	
23.	まとめ	授業の振り返り	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （50％） 授業内課題 （50％）		
特記すべき 事項	身体のことなので稽古量が必要とされる。自習することは望ましいが、正しく基礎をわきまえて行い、怪我に注意すること。 レッスン前にストレッチをすることが望ましい。		
質問・相談 の 受 付			

科 目	身体表現研究C－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音楽に合わせて身体を動かすことができる。		
到達目標	ダンスを楽しむことができる。演劇に必要な美しい姿勢の習得。振付を覚えることができる。		
学習成果の 評価基準	毎授業の復習を含めた授業中の成果及び最後の授業で行うテストの成果で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	アイソレーション①、ストレッチ	身体の使い方の復習 ストレッチの復習	
2.	アイソレーション②	身体の使い方の復習	
3.	コンビネーション①	動きと復習	
4.	コンビネーション②	動きと復習	
5.	振付①	振付の確認	
6.	音楽に合わせて踊る①	苦手な箇所の解消	
7.	音楽に合わせて踊る②	音楽に合わせて動く練習	
8.	振付②	振付の確認	
9.	音楽に合わせて踊る③	苦手な箇所の解消	
10.	音楽に合わせて踊る④	音楽に合わせて動く練習	
11.	振付③	振付の確認	
12.	音楽に合わせて踊る⑤	苦手な箇所の解消	
13.	音楽に合わせて踊る⑥	音楽に合わせて動く練習	
14.	振付④	振付の確認	
15.	音楽に合わせて踊る⑦	苦手な箇所の解消	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50%） 小テスト（10%） 授業内課題（20%） 定期試験（10%） 授業内発表（10%）		
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装で受講のこと。水分とタオルを持参のこと。髪の毛の長い人は結んでください。		
質問・相談 の受付			

1-5

科 目	身体表現研究C－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音楽に合わせて身体を動かすことができる。		
到達目標	ダンスを楽しむことができる。演劇に必要な美しい姿勢の習得。振付を覚えることができる。		
学習成果の 評価基準	毎授業の復習を含めた授業中の成果及び最後の授業で行うテストの成果で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
16.	音楽に合わせて踊る⑧	音楽に合わせて動く練習	
17.	音楽に合わせて楽しく踊る	表現してみる	
18.	まとめ	授業の振り返り	
19.	まとめ	授業の振り返り	
20.	まとめ	授業の振り返り	
21.	まとめ	授業の振り返り	
22.	まとめ	授業の振り返り	
23.	まとめ	授業の振り返り	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50%） 小テスト（10%） 授業内課題（20%） 定期試験（10%） 授業内発表（10%）		
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装で受講のこと。水分とタオルを持参のこと。髪の毛の長い人は結んでください。		
質問・相談 の 受 付			

科 目	身体表現研究D－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	福田眞弓	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音楽に合わせて表現することができる。身体の使い方の追求。		
到達目標	曲のイメージを持ち、身体を使って表現できる。音を聴けるようになる。		
学習成果の 評価基準	毎授業の復習を含めた授業中の成果及び最後の授業で行うテストの成果で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	裏取り・表取り リズム練習	音楽を聴いて裏と表をとる	
2.	コンビネーション①	振付の確認	
3.	コンビネーション①	音に合わせて踊れるようになる	
4.	コンビネーション②	振付の確認	
5.	コンビネーション②	音に合わせて踊れるようになる	
6.	コンビネーション③	振付の確認	
7.	コンビネーション③	音に合わせて踊れるようになる	
8.	振付①振付	振付の確認	
9.	振付①身体の使い方の説明	音を聴いて動く	
10.	振付①音に合わせて踊ることができる	ポイントを決める	
11.	振付①表現して踊ることができる	身体が自由に動く練習	
12.	振付②振付	振付の確認	
13.	振付②身体の使い方の説明	音を聴いて動く	
14.	振付②音に合わせて踊ることができる	ポイントを決める	
15.	振付②表現して踊ることができる	身体が自由に動く練習	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 小テスト (10%) 授業内課題 (20%) 定期試験 (10%) 授業内発表 (10%)		
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装で受講のこと。水分とタオルを持参のこと。髪の毛の長い人は結んでください。		
質問・相談 の 受 付			

1-6	身体表現研究D-I		開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	福田真弓		授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音楽に合わせて表現することができる。身体の使い方の追求。			
到達目標	曲のイメージを持ち、身体を使って表現できる。音を聴けるようになる。			
学習成果の 評価基準	毎授業の復習を含めた授業中の成果及び最後の授業で行うテストの成果で評価する。			
	授 業 計 画 (授 業 内 容)			授業時間外学習 予習・復習
16.	振付①振付			振付の確認
17.	振付①身体の使い方の説明			音を聴いて動く
18.	振付①音に合わせて踊ることができる			ポイントを決める
19.	振付①表現して踊ることができる			身体が自由に動く練習
20.	まとめ			授業の振り返り
21.	まとめ			授業の振り返り
22.	まとめ			授業の振り返り
23.	まとめ			授業の振り返り
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
教科書				
参考書				
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 小テスト (10%) 授業内課題 (20%) 定期試験 (10%) 授業内発表 (10%)			
特記すべき 事項	ジャズシューズ・身体のラインがわかる服装で受講のこと。水分とタオルを持参のこと。髪の毛の長い人は結んでください。			
質問・相談 の受付				

科 目	伝統芸能研究 A－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	先ず浴衣に着替え、美しい姿勢でのお辞儀、立ち座りなどの立居振舞の指導に始まり、日本舞踊の基礎作りとなる曲の指導を通して、見て真似をしながら学ぶ事の大事さを伝える。繰り返し練習して身に付けることを学ぶ。		
到達目標	浴衣の着付けの習得。美しい姿勢で正座をしてお辞儀ができる。日本人独特の繊細な感性や表現があることを知る。「菊づくし」の前半と「白扇の」を踊れるようにする。		
学習成果の 評価基準	・菊づくしの評価（30%）美しい姿勢で腰の落とし方、振り方、おすべりの修得 ・白扇の評価（60%）美しい姿勢で、三つ首、胸を張って柔らかな動きの修得、及び扇子の使い方の修得		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	浴衣の着付け 日本舞踊の基本となる正しい姿勢でのお辞儀の仕方	着付けの本等見ておく	
2.	日本舞踊の概説と受講の心構え。	着付けの練習	
3.	長唄「菊づくし」前半の稽古（1）	着付けの練習と正しい姿勢、お辞儀の練習	
4.	長唄「菊づくし」前半の稽古（2）	習った動きを復習して覚える	
5.	長唄「菊づくし」前半の稽古（3）	習った動きを復習して覚える	
6.	長唄「菊づくし」前半の稽古（4）	習った動きを復習して覚える	
7.	長唄「菊づくし」前半の稽古（5）	習った動きを復習して覚える	
8.	長唄「菊づくし」前半の小テスト	正しい姿勢、腰のおとし方、おすべり等を評価	
9.	小唄「白扇の」の稽古（1）	扇の開き方、お辞儀の仕方、袖の扱い	
10.	小唄「白扇の」の稽古（2）	習った動きを復習して覚える	
11.	小唄「白扇の」の稽古（3）	習った動きを復習して覚える	
12.	小唄「白扇の」の稽古（4）	習った動きを復習して覚える	
13.	小唄「白扇の」の稽古（5）	習った動きを復習して覚える	
14.	小唄「白扇の」の稽古（6）	習った動きを復習して覚える	
15.	小唄「白扇の」の稽古（7）	習った動きを復習して覚える	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 小テスト（30%） 授業内発表（60%）		
特記すべき 事項	担当者は舞踊講師として35年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付	授業中や授業の前後にも受け付けます。		

科 目	伝統芸能研究 A－I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	花柳三枝君	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	先ず浴衣に着替え、美しい姿勢でのお辞儀、立ち座りなどの立居振舞の指導に始まり、日本舞踊の基礎作りとなる曲の指導を通して、見て真似をしながら学ぶ事の大事さを伝える。繰り返し練習して身に付けることを学ぶ。		
到達目標	浴衣の着付けの習得。美しい姿勢で正座をしてお辞儀ができる。日本人独特の繊細な感性や表現があることを知る。「菊づくし」の前半と「白扇の」を踊れるようにする。		
学習成果の 評価基準	・菊づくしの評価（30%）美しい姿勢で腰の落とし方、振り方、おすべりの修得 ・白扇の評価（60%）美しい姿勢で、三つ首、胸を張って柔らかな動きの修得、及び扇子の使い方の修得		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
16.	小唄「白扇の」の稽古（8）	習った動きを復習して覚える	
17.	小唄「白扇の」の稽古（9）	皆の前で一人で踊れるように	
18.	小唄「白扇の」の稽古（10）	皆の前で一人で踊れるように	
19.	小唄「白扇の」テスト	皆の前で一人で踊れるように	
20.	まとめ	授業の振り返り	
21.	まとめ	授業の振り返り	
22.	まとめ	授業の振り返り	
23.	まとめ	授業の振り返り	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 小テスト（40%） 授業内発表（50%）		
特記すべき 事項	担当者は舞踊講師として35年の実務経験を有しています		
質問・相談 の 受 付	授業中や授業の前後にも受け付けます。		

科 目	音声表現研究 A－I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音声のみでの表現の特性を学ぶ。スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。		
到達目標	音声表現と身体表現の関連性を感じ、自身の言葉に敏感になる耳を得る。 声優を志す者は、特に言葉と向き合い、音声での表現力を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 評価は「ことば」「芝居」をみる。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業内容の説明		
2.	声優の基礎知識・声で遊ぶ	配布資料を読んでおく	
3.	台詞を読む	配布資料を読んでおく	
4.	ボイスドラマ①	配布資料を読んでおく	
5.	ボイスドラマ②	配布資料を読んでおく	
6.	ボイスドラマ③	配布資料を読んでおく	
7.	ボイスドラマ④	配布資料を読んでおく	
8.	ボイスドラマ⑤	配布資料を読んでおく	
9.	ボイスドラマ⑥	配布資料を読んでおく	
10.	アニメアフレコ①	配布資料を読んでおく	
11.	アニメアフレコ②	配布資料を読んでおく	
12.	アニメアフレコ③	配布資料を読んでおく	
13.	アニメアフレコ④	配布資料を読んでおく	
14.	アニメアフレコ⑤	配布資料を読んでおく	
15.	漫画に声を入れる①	配布資料を読んでおく	
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	受講態度 4 0 %、授業内成果発表 6 0 %		
特記すべき 事 項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	音声表現研究 A－I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	植木 誠	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	音声のみでの表現の特性を学ぶ。スタジオ内でのマナーや用語、マイクワークの習得。		
到達目標	音声表現と身体表現の関連性を感じ、自身の言葉に敏感になる耳を得る。 声優を志す者は、特に言葉と向き合い、音声での表現力を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業への取り組み方を「受講態度」として評価する。 授業内での実践発表を達成度の評価とし、段階評価をフィードバックする。 評価は「ことば」「芝居」をみる。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
16.	漫画に声を入れる②	配布資料を読んでおく	
17.	漫画に声を入れる③	配布資料を読んでおく	
18.	漫画に声を入れる④	配布資料を読んでおく	
19.	漫画に声を入れる⑤	配布資料を読んでおく	
20.	漫画に声を入れる⑥	配布資料を読んでおく	
21.	漫画に声を入れる⑦	配布資料を読んでおく	
22.	漫画に声を入れる⑧	配布資料を読んでおく	
23.	まとめ	振り返り	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書	DVD・台本等		
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	受講態度 4 0 %、授業内成果発表 6 0 %		
特記すべき 事 項	声優として多数の作品に出演		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	音声表現研究B－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	アニメ制作におけるアフレコ現場でのマナー、マイクワークの基礎を理解する アニメ制作に必要な演技の基礎を学ぶ。		
到達目標	アニメ制作におけるアフレコ現場でのマナー、マイクワークの基礎を理解することができる。 アニメ制作に必要な演技の基礎を習得できる。		
学習成果の 評価基準	アニメ制作において、アフレコを担当する役者としてのマナーや技術の習得ができているかを実技によって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業内容、主題を理解する		
2.	声優の基礎知識 用語の成り立ちや意味を理解する	配布プリントを読んでおく	
3.	アニメ制作の工程 アニメ制作における声優の役割を理解	配布プリントを読んでおく	
4.	アフレコ現場におけるマナー	配布プリントを読んでおく	
5.	専門用語の基礎知識 現場で使用される用語を知り理解する	配布プリントを読んでおく	
6.	言葉への意識 台詞を形作る五十音に目を向ける	配布プリントを読んでおく	
7.	アクセント 正しいアクセントの理解	配布プリントを読んでおく	
8.	言葉の基礎のまとめ 基礎部分のまとめと整理	台本を読んでおく	
9.	台本の分析（1） 台本の構成を理解する	台本を読んでおく	
10.	台本の分析（2） 台本の内容を理解する	台本を読んでおく	
11.	台本の分析（3） 台本を詳細に分析する	台本を読んでおく	
12.	映像の分析（1） 台本と映像の関係（第一段階）	台本を読み映像を見ておく	
13.	映像の分析（2） 台本と映像の関係（第二段階）	台本を読み映像を見ておく	
14.	マイクワーク（1） マイクの使い方を理解する	台本を読み映像を見ておく	
15.	マイクワーク（2） 少人数で使用する時の注意点	台本を読み映像を見ておく	
教科書	配布プリント、台本、映像素材		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（40%） 授業内課題（40%） その他【 授業に対する積極性 】（20%）		
特記すべき 事項	台本、プリントを読み込み、積極的に行動、努力すること。		
質問・相談 の 受 付			

1-9

科 目	音声表現研究B－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	松本美和	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	アニメ制作におけるアフレコ現場でのマナー、マイクワークの基礎を理解する アニメ制作に必要な演技の基礎を学ぶ。		
到達目標	アニメ制作におけるアフレコ現場でのマナー、マイクワークの基礎を理解することができる。 アニメ制作に必要な演技の基礎を習得できる。		
学習成果の 評価基準	アニメ制作において、アフレコを担当する役者としてのマナーや技術の習得ができているかを実技によって評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
16.	アニメアフレコ（1） アフレコの流れを学ぶ	台本を読んでおく	
17.	アニメアフレコ（2） 台本の流れを把握する	台本を読んでおく	
18.	アニメアフレコ（3） 映像を把握する	台本を読み、映像を見ておく	
19.	アニメアフレコ（4） 映像に台詞を合わせる（第一段階）	台本を読んでおく	
20.	アニメアフレコ（5） 映像に台詞を合わせる（第二段階）	台本を読んでおく	
21.	アニメアフレコ（6） 映像に合わせ収録する（第一段階）	台本を読んでおく	
22.	アニメアフレコ（7） 映像に合わせ収録する（第二段階）	台本を読んでおく	
23.	まとめ及び評価 振り返り整理する		
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書	配布プリント、台本、映像素材		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （40％） 授業内課題 （40％） その他【 授業に対する積極性 】 （20％）		
特記すべき 事項	台本、プリントを読み込み、積極的に行動、努力すること。		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	歌唱表現法 A－I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	辺春容子	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	○前期 楽譜に慣れ、音楽の基礎知識やソルフェージュ力を身につける。実技を通して、発声方法や体の使い方学ぶ。 ○後期 前期の学習を踏まえ、より音楽的な歌唱表現をめざす。		
到達目標	○前期 5度音程までの視唱をアカペラで歌唱できるようになる。なだらかな発語で課題曲の歌唱ができるようになる。 ○後期 さらに広い音程を安定して歌唱できるようになる。歌詞を理解することでより豊かな歌唱表現を工夫できるようになる。		
学習成果の 評価基準	○授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 ○実技試験での音程・声量・技術・表現の観点における評価		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	発声の基礎① 視唱（2度音程）① リズム練習 1－1 課題曲（1）（2）－1	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
2.	発声の基礎② 視唱（2度音程）② リズム練習 1－2 課題曲（1）（2）－2	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
3.	発声の基礎 視唱（3度音程）① リズム練習 2－1 課題曲（1）（2）－3	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
4.	発声の基礎 視唱（3度音程）② リズム練習 2－2 課題曲（3）（4）－1	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
5.	発声の基礎 視唱（4度音程）① リズム練習 3－1 課題曲（3）（4）－2	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
6.	発声の基礎 視唱（4度音程）② リズム練習 3－2 課題曲（3）（4）－3	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
7.	発声の基礎 視唱（5度音程）① リズム練習 4－1 課題曲（5）－1（1～4）－復習	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
8.	発声の基礎 視唱（5度音程）② リズム練習 4－2 課題曲（5）－2（1～4）－復習	授業内容の復習	
9.	第1回実技テスト		
10.	発声の基礎 視唱（6度音程）① リズム練習 5－1 課題曲（6）（7）－1	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
11.	発声の基礎 視唱（6度音程）② リズム練習 5－2 課題曲（6）（7）－2	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
12.	発声の基礎 視唱（7度音程）① リズム練習 6－1 課題曲（6）（7）－3	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
13.	発声の基礎 視唱（7度音程）② リズム練習 6－2 課題曲（8）（9）－1	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
14.	発声の基礎 視唱（8度音程）① リズム練習 7－1 課題曲（8）（9）－2	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
15.	発声の基礎 視唱（8度音程）② リズム練習 7－2 課題曲（8）（9）－3	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
教科書	基礎ソルフェージュ（ソルフェージュ教育ライブラリー） 課題曲は授業時に配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （20％） その他【 実技テスト 】 （80％）		
特記すべき 事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかりと行っておく。		
質問・相談 の受付			

科 目	歌唱表現法 A－I		開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	辺春容子		授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	○前期 楽譜に慣れ、音楽の基礎知識やソルフェージュ力を身につける。実技を通して、発声方法や体の使い方学ぶ。 ○後期 前期の学習を踏まえ、より音楽的な歌唱表現をめざす。			
到達目標	○前期 5度音程までの視唱をアカペラで歌唱できるようになる。なだらかな発語で課題曲の歌唱ができるようになる。 ○後期 さらに広い音程を安定して歌唱できるようになる。歌詞を理解することでより豊かな歌唱表現を工夫できるようになる。			
学習成果の 評価基準	○授業内で行ったことの復習、定着の度合い。 ○実技試験での音程・声量・技術・表現の観点においての評価			
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）			授業時間外学習 予習・復習
16.	発声の基礎 リズム練習 8－1	視唱（総合練習）① 課題曲（6～9）－復習	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
17.	発声の基礎 リズム練習 8－2	視唱（総合練習）② 課題曲（6～9）－復習	授業内容の復習 次回の課題の譜読み・視唱暗譜	
18.	第2回実技テスト			
19.	まとめ			
20.	まとめ			
21.	まとめ			
22.	まとめ			
23.	まとめ			
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
教科書	基礎ソルフェージュ（ソルフェージュ教育ライブラリー） 課題曲は授業時に配布			
参考書				
学習成果の 評価方法	受講態度 （20％） その他【 実技テスト 】 （80％）			
特記すべき 事項	実技に差し支えることのないように、各自で健康管理をしっかりと行っておく。			
質問・相談等 の 受 付				

科 目	ミュージカル研究Ⅰ	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	上田聖子	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	ミュージカル楽曲を歌い、踊り、演じる。		
到達目標	ミュージカル楽曲を、自分の個性や役柄に合わせて歌い、踊り、演じる事ができる、		
学習成果の 評価基準	授業での集中度や積極的態度を『受講態度』とする。 また、楽曲が表現が出来ているかを授業内発表で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	自分の声質と課題を知る。	なし。	
2.	呼吸法と発声法をを練習する。	呼吸法と発声法を稽古する。	
3.	楽曲1を譜読みする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
4.	楽曲1を歌稽古する。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
5.	楽曲1を振り入れする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
6.	楽曲1を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
7.	楽曲1を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
8.	楽曲2を譜読みする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
9.	楽曲2を歌稽古する。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
10.	楽曲2を振り入れする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲をい復習する。	
11.	楽曲2を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
12.	楽曲2を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を拭き集する。	
13.	楽曲3を譜読みする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
14.	楽曲3を歌稽古する。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
15.	楽曲3を振り入れする。		
教科書	ミュージカル楽曲の楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評価方法	受講態度50%		
特記すべき 事項	音楽監督、歌唱指導者として40年以上の経験を有する。		
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	ミュージカル研究 I	開講時期 履修方法	1年通年 選択、専門科目
担当者	上田聖子	授業形態 単位数	実技 1単位
授業概要	ミュージカル楽曲を歌い、踊り、演じる。		
到達目標	ミュージカル楽曲を、自分の個性や役柄に合わせて歌い、踊り、演じる事ができる、		
学習成果の 評価基準	授業での集中度や積極的態度を『受講態度』とする。 また、楽曲が表現が出来ているかを授業内発表で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
16.	楽曲3を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
17.	楽曲3を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
18.	楽曲4を譜読みする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
19.	楽曲4を歌稽古する。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
20.	楽曲4を振り入れする。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
21.	楽曲4を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
22.	楽曲4を演じる。	呼吸法と発声法を稽古する。 楽曲を復習する。	
23.	まとめ。	呼吸法と発声法を稽古する。	
24.			
25.			
26.			
27.			
28.			
29.			
30.			
教科書	ミュージカル楽曲の楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評価方法	受講態度50% 授業内課題達成度50%		
特記すべき 事項	音楽監督、歌唱指導者として40年以上の経験を有する。		
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	舞台演習 I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	井上嘉人	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台監督の仕事を通して、舞台創造の基礎を学ぶ		
到達目標	舞台芸術におけるスタッフワークについての基礎知識を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	スタッフワークの基礎知識の取得を測るために、受講態度（40％）・授業内課題（30％）・その他（レポート提出30％）で評価します。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	劇場の基礎知識を学ぶ①（劇場見学①）	大谷小劇場の見学	
2.	劇場の基礎知識を学ぶ②（劇場見学②）	大谷講堂の見学	
3.	劇場の基礎知識を学ぶ③（舞台用語）	舞台基礎知識の把握	
4.	劇場の基礎知識を学ぶ④（バミリ等について）	舞台基礎知識の把握	
5.	劇場の舞台機構を覚える（綱元の仕組み）	劇場機構の理解	
6.	劇場の舞台機構を覚える（綱元操作実技）	劇場機構の理解	
7.	劇場の舞台機構を覚える（綱元操作応用）	劇場機構の理解	
8.	舞台での安全作業の確認について学ぶ	安全作業の理解	
9.	舞台でのスケジュールについて学ぶ	舞台進行の把握	
10.	舞台監督の役割についての説明と確認等	業務内容の確認	
11.	舞台図面の見方（舞台平面図、断面図、正面図）	舞台図面の理解	
12.	舞台備品の仕込み方①（平台と箱馬の仕込み）	劇場備品の把握	
13.	舞台備品の仕込み方②（スチールデッキの仕込み）	劇場備品の把握	
14.	舞台備品の仕込み方③（ビニールマットの仕込み）	劇場備品の把握	
15.	まとめ（前期と後期の復習・振り返り）	レポートの提出	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（40％） 授業内課題（30％） その他【 レポート 】（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	舞台演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年前期集中 選択、専門科目
担当者	尾花宏行	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2年生7月公演を通して、舞台機構全般を学ぶ		
到達目標	公演に関わる舞台機構全般を把握することが出来るようになる		
学習成果の 評価基準	公演への関わり方の積極性を受講態度として評価、各部署毎の実践力を授業内課題として評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	脚本を読む①	上演台本の手配	
2.	脚本を読む②	上演台本の手配	
3.	脚本を読む③	上演台本の手配	
4.	脚本を読む④	上演台本の手配	
5.	脚本を読む⑤	上演台本の手配	
6.	舞台機構のプランニング	舞台図の準備	
7.	舞台図制作①	舞台図の準備	
8.	舞台図制作②	舞台図の準備	
9.	大道具製作①	設計図の把握	
10.	大道具製作②	設計図の把握	
11.	大道具製作③	設計図の把握	
12.	大道具製作④	設計図の把握	
13.	大道具製作⑤	設計図の把握	
14.	大道具製作⑥	設計図の把握	
15.	まとめ		
教科書	上演台本、舞台図、設計図		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（70％） 授業内課題（30％）		
特記すべき 事項	舞台監督として多数の作品に携わる		
質問・相談等 の受付			

科 目	舞台演習Ⅲ	開講時期 履修方法	1 年前期集中 選択、専門科目
担当者	尾花宏行	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2年生 7 月公演を通して、実際の舞台創りの流れを学ぶ		
到達目標	公演に関わるスタッフ作業の流れを把握することが出来るようになる		
学習成果の 評価基準	公演への関わり方の積極性を受講態度として評価、各部署毎の実践力を授業内課題として評価		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	小道具製作①	リストの作成	
2.	小道具製作②	リストの作成	
3.	小道具製作③	リストの作成	
4.	小道具製作④	リストの作成	
5.	小道具製作⑤	リストの作成	
6.	照明について①	仕込み図の確認	
7.	照明について②	仕込み図の確認	
8.	照明について③	仕込み図の確認	
9.	照明について④	仕込み図の確認	
10.	音響について①	仕込み図の確認	
11.	音響について②	仕込み図の確認	
12.	音響について③	仕込み図の確認	
13.	製作について		
14.	製作について		
15.	まとめ		
教科書	上演台本、舞台図、仕込み図		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（70％） 授業内課題（30％）		
特記すべき 事項	舞台監督として多数の作品に携わる		
質問・相談等 の受付			

科 目	舞台演習Ⅳ	開講時期 履修方法	1年前期集中 選択、専門科目
担当者	尾花宏行	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2年生7月公演のリハーサル及び本番の運営を学ぶ		
到達目標	公演の本番運営を把握することが出来るようになる		
学習成果の 評価基準	公演への関わり方の積極性を受講態度として評価、各部署毎の実践力を授業内課題として評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	通し稽古①	台本の確認	
2.	通し稽古②	台本の確認	
3.	通し稽古③	キューシート作成	
4.	通し稽古④	キューシート作成	
5.	場当たり①	キューシート確認	
6.	場当たり②	キューシート確認	
7.	ゲネプロ①	キューシート確認	
8.	ゲネプロ②	キューシート確認	
9.	ゲネプロ③	キューシート確認	
10.	ゲネプロ④	キューシート確認	
11.	本番①	キューシート確認	
12.	本番②	キューシート確認	
13.	本番③	キューシート確認	
14.	本番④	キューシート確認	
15.	まとめ		
教科書	上演台本、キューシート		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（70%） 授業内課題（30%）		
特記すべき 事項	舞台監督として多数の作品に携わる		
質問・相談等 の受付			

科 目	音響基礎Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	穂田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	基本的な知識・技術の習得		
到達目標	中間発表に必要な技術の実習		
学習成果の 評価基準	到達度確認テストを実施し評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	音響の基礎①	PAとは	
2.	音響の基礎②	前回の復習	
3.	各種ケーブルの巻き方①	マイクケーブルの8の字巻き	
4.	各種ケーブルの巻き方②	太めのマルチケーブルの8の字巻き	
5.	音響機器の特性と用途①	オーディオ再生機器（1）	
6.	音響機器の特性と用途②	オーディオ再生機器（2）	
7.	音響ミキサーについて①	アナログミキサー（1）	
8.	音響ミキサーについて②	アナログミキサー（2）	
9.	音響ミキサーについて③	アナログミキサー（3）	
10.	音響機材の接続①	接続（1）	
11.	音響機材の接続②	接続（2）	
12.	音響機材の接続③	接続（3）	
13.	劇場の音響について①	前回までの復習	
14.	劇場の音響について②	前回までの復習	
15.	まとめ	前回までの復習	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（40%） 授業内課題（30%） その他【 到達度テスト 】（30%）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	音響基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	穂田裕司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	技術を習得し、一人で音を出せるのを目標とする		
到達目標	音が出るまでの配線の習得		
学習成果の 評価基準	到達度確認テストを実施し評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	音響の仕込み図の書き方①	記号・楽器等	
2.	音響の仕込み図の書き方②	記号・楽器等	
3.	仕込み図を見てのセッティング	仕込み図	
4.	劇場にての音出し	セッティング	
5.	イコライザーでの調整方法	イコライザーの配線	
6.	エフェクターの種類について	エフェクターの準備	
7.	音源の編集①	効果音	
8.	音源の編集②	効果音	
9.	音源の編集③	効果音	
10.	デジタルミキサーの使い方①	ミキサー	
11.	デジタルミキサーの使い方②	ミキサー	
12.	音源の再生①	スピーカー等の準備	
13.	音源の再生②	スピーカー等の準備	
14.	音響機器を一人で接続してみる①	音響機材	
15.	まとめ	音響機材	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 （40%） 授業内課題 （30%） その他【 到達度テスト 】 （30%）		
特記すべき 事項	この科目の単位が取得できなければ、後期「音響基礎Ⅱ」は履修できない		
質問・相談等 の受付			

科 目	照明基礎Ⅰ	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	赤司晴彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台芸術の質を高める為には不可欠な「舞台照明」についての基礎知識を学ぶ。		
到達目標	舞台照明についての基礎知識を基礎技術を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	積極性と理解度を受講態度とし、授業内課題の成果と共に評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	舞台照明概要の説明		
2.	舞台機構と照明～昇降操作	配布資料の確認	
3.	舞台機構と舞台照明設備について	配布資料の確認	
4.	スポットライト・フィルターとゴボについて	前回の復習	
5.	舞台照明に必要な電気知識について	前回の復習	
6.	舞台における照明の作業	前回の復習	
7.	コンサート照明について（1）	VTR等で照明効果を学習	
8.	コンサート照明について（2）	VTR等で照明効果を学習	
9.	コンサート照明の確認	VTR等で照明効果を学習	
10.	照明の仕込みについて	前回の復習	
11.	照明シュート（フォーカシング）	前回の復習	
12.	7月公演の照明仕込みについて	台本の理解	
13.	7月公演の仕込み（1）	台本の理解	
14.	7月公演の仕込み（2）	台本の理解	
15.	まとめ	振り返りと自己点検	
教科書	プリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50%） 授業内課題（20%） その他【 レポート 】（30%）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	照明基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	赤司晴彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	舞台照明の基礎知識を応用し、照明の仕込みに必要な基礎技術を学ぶ。		
到達目標	前期に学んだ基礎技術を基にして、舞台照明を仕込むにあたっての技術を身に付ける事が出来る。		
学習成果の 評価基準	積極性と理解度を受講態度とし、授業内課題の成果と共に評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	前期レポートの振り返り	前期レポートの確認	
2.	ケーブル巻・灯体吊りこみ・幕の張り替え	前回の復習	
3.	ケーブル巻・灯体吊りこみ・幕の張り替え	前回の復習	
4.	7月公演の照明プランについて	プランの理解	
5.	ミュージカル照明	ミュージカル作品の鑑賞	
6.	ミュージカル照明	ミュージカル作品の鑑賞	
7.	ミュージカル照明の確認	ミュージカル作品の鑑賞	
8.	シュート実践	前回の復習	
9.	シュート実践	前回の復習	
10.	シュート実践	前回の復習	
11.	調光操作卓の取り扱い	操作の復習	
12.	調光操作卓の取り扱い	操作の復習	
13.	卒業公演 仕込み	プランの理解	
14.	卒業公演 仕込み	プランの理解	
15.	まとめ	振り返りと点検	
教科書	プリント配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 (50%) 授業内課題 (50%)		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科 目	劇場演習Ⅰ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	日下部 信・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年9月18日から9月20日までに行われる、「音楽劇Shinran」の舞台稽古、及びテクカルリハーサル。 俳優として、またスタッフとして音楽劇完成に向けてリハーサルする。		
到達目標	俳優として、舞台機構を使いながら場面を演じる事が出来る。 またスタッフとして、舞台機構を安全に使い、場面を進行する事が出来る。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また俳優として、スタッフとして、演出家や音楽監督、舞台監督の指示の元、的確に判断し行動する事が出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	照明、音響、舞台装置などと共に行われる通し稽古のためのプリセット。	体調を整える。	
2.	照明、音響、舞台装置などと共に行われる通し稽古のための抜き稽古。	体調を整える。	
3.	照明、音響、舞台装置などと共に行われる通し稽古。 1幕通し。	体調を整える。	
4.	照明、音響、舞台装置などと共に行われる通し稽古。 2幕通し。	体調を整える。	
5.	照明、音響、舞台装置などと共に行われる通し稽古。 ダメ出しと修正作業。	体調を整える。	
6.	バンド合わせ。 Ⅰ幕のMナンバー合わせと音響チェック。	体調を整える。	
7.	バンド合わせ。 2幕のMナンバー合わせと音響チェック。	体調を整える。	
8.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 Ⅰ幕通し。	体調を整える。	
9.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 2幕通し。	体調を整える。	
10.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
11.	バンド、音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
12.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
13.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
14.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
15.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。 ダメ出しと修正。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜		
参考書	なし。		
学習成果の 評価方法	受講態度50% 授業内課題達成度50%		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	日下部 信・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年9月21日から9月24日までに行われる、「音楽劇Shinran」の通し稽古とテクカルリハーサル。 及び制作作業。 俳優として、またスタッフとして音楽劇完成に向けて準備、リハーサルする。		
到達目標	俳優として、舞台機構を使いながら場面を演じる事が出来る。 舞台スタッフとして、舞台機構を安全に使い、場面を進行する事が出来る。 制作スタッフとして、観客の立場に立って資料や会場を準備する事ができる。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また俳優として、スタッフとして、的確に判断し行動する事が出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
2.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
3.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
4.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
5.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
6.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
7.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
8.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
9.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
10.	テクニカルリハーサルと修正、及び小返し。 制作作業。	体調を整える。	
11.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
12.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。Ⅰ幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
13.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。2幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
14.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
15.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜		
参考書	なし。		
学習成果の 評価方法	受講態度50% 授業内課題達成度50%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅲ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	日下部 信・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年9月25日から9月27日までに行われる、「音楽劇Shinran」の通し稽古とテクカルリハーサル。 及び制作作業。 俳優として、またスタッフとして音楽劇完成に向けて準備、リハーサルする。		
到達目標	俳優として、舞台機構を使いながら場面を演じる事が出来る。 舞台スタッフとして、舞台機構を安全に使い、場面を進行する事が出来る。 制作スタッフとして、観客の立場に立って資料や会場を準備する事が出来る。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また俳優として、スタッフとして、的確に判断し行動する事が出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
2.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。I幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
3.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。2幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
4.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
5.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
6.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
7.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。I幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
8.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。2幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
9.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
10.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
11.	音響、照明、舞台装置などと共に行われる1幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
12.	音響、照明、舞台装置などと共に行われる1幕通し稽古。 制作作業。	体調を整える。	
13.	音響、照明、舞台装置などと共に行われる1幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
14.	音響、照明、舞台装置などと共に行われる1幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
15.	音響、照明、舞台装置などと共に行われる1幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜		
参考書	なし。		
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50％ 授業内課題達成度50％		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅳ	開講時期 履修方法	1 年後期集中 選択、専門科目
担当者	日下部 信・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年9月28日から9月30日までに行われる、「音楽劇Shinran」の通し稽古とテクカルリハーサル。 及び制作作業。 俳優として、またスタッフとして音楽劇完成に向けて準備、リハーサルする。		
到達目標	俳優として、舞台機構を使いながら演じる事が出来る。 舞台スタッフとして、舞台機構を安全に使い、場面を進行する事が出来る。 制作スタッフとして、観客の立場に立って資料や会場を準備する事が出来る。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また俳優として、スタッフとして、的確に判断し行動する事が出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる2幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
2.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる2幕通し稽古。 制作作業。	体調を整える。	
3.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる2幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
4.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる2幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
5.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる2幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
6.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古のためのプリセット。 制作作業。	体調を整える。	
7.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。1幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
8.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。2幕通し。 制作作業。	体調を整える。	
9.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
10.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われる全幕通し稽古。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
11.	音響、照明、舞台装置などと共に行われるGPのためのプリセット。 客入れ準備。	体調を整える。	
12.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われるGP。1幕。 （他学科、教職員総見）	体調を整える。	
13.	バンドと音響、照明、舞台装置などと共に行われるGP。2幕。 （他学科、教職員総見）	体調を整える。	
14.	音響、照明、舞台装置などと共に行われるGP。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
15.	音響、照明、舞台装置などと共に行われるGP。ダメ出しと修正。 制作作業。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜		
参考書	なし。		
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50％ 授業内課題達成度50％		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅴ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年10月1日に行われる「音楽劇Shinran」のGPと、10月2日と10月3日に行われる本番。 俳優として、またスタッフとして、音楽劇の本番を行う。		
到達目標	「音楽劇Shinran」の全幕を、土曜日2ステージと日曜日2ステージ、全4ステージ、俳優として又スタッフとして、上演する。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また、俳優として自分の個性を生かし、役柄や場面にあった演技ができる事、スタッフとしての確かな判断や動きが責任を持って出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	10月1日、GPに向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
2.	10月1日、GP。(他学科学生及び教職員総見) 1幕を上演する。	体調を整える。	
3.	10月1日、GP。(他学科学生及び教職員総見) 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。小返し。	体調を整える。	
4.	10月2日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
5.	10月2日、本番。午前の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
6.	10月2日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
7.	10月2日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
8.	10月2日、本番。午後の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
9.	10月2日、本番。午後の部。 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
10.	10月3日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
11.	10月3日、本番。午前の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
12.	10月3日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
13.	10月3日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
14.	10月3日、本番。午後の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
15.	10月3日、本番。午後の部。 2幕を妖艶する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50% 授業内課題到達度50%		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅵ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏・植木 誠	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年10月9日と10月10日に行われる「音楽劇Shinran」の本番と、10月8日に行われるGP。 俳優として、またスタッフとして、音楽劇の本番を行う。		
到達目標	「音楽劇Shinran」の全幕を、土曜日2ステージと日曜日2ステージ、全4ステージ、俳優として又スタッフとして、上演する。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また、俳優として自分の個性を生かし、役柄や場面にあった演技ができる事、スタッフとしての確かな判断や動きが責任を持って出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	10月8日、GPに向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。	体調を整える。	
2.	10月8日、GP。 1幕を上演する。	体調を整える。	
3.	10月8日、GP。 2幕を上演する。終了後ダメ出し。小返し。	体調を整える。	
4.	10月9日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
5.	10月9日、本番。午前の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
6.	10月9日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
7.	10月9日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
8.	10月9日、本番。午後の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
9.	10月9日、本番。午後の部。 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
10.	10月10日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
11.	10月10日、本番。午前の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
12.	10月10日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
13.	10月10日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
14.	10月10日、本番。午後の部。 1幕を上演する。	体調を整える。	
15.	10月10日、本番。午後の部。 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評価方法	受講態度50% 授業内課題到達度50%		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅶ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏・日下部 信	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年10月16日と10月17日に行われる「音楽劇Shinran」の本番と、10月15日に行われるGP。 俳優として、またスタッフとして、音楽劇の本番を行う。		
到達目標	「音楽劇Shinran」の全幕を、土曜日2ステージと日曜日2ステージ、全4ステージ、俳優として又スタッフとして、上演する。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また、俳優として自分の個性を生かし、役柄や場面にあった演技ができる事、スタッフとしての確かな判断や動きが責任を持って出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	10月15日、GPに向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。	体調を整える。	
2.	10月15日、GP。 I幕を上演する。	体調を整える。	
3.	10月15日、GP。 2幕を上演する。終了後ダメ出し。小返し。	体調を整える。	
4.	10月16日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
5.	10月16日、本番。午前の部。 I幕を上演する。	体調を整える。	
6.	10月16日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
7.	10月16日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
8.	10月16日、本番。午後の部。 I幕を上演する。	体調を整える。	
9.	10月16日、本番。午後の部。 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
10.	10月17日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
11.	10月17日、本番。午前の部。 I幕を上演する。	体調を整える。	
12.	10月17日、本番。午前の部。 2幕を上演する。	体調を整える。	
13.	10月17日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
14.	10月17日、本番。午後の部。 I幕を上演する。	体調を整える。	
15.	10月17日、本番。午後の部。 2幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50% 授業内課題到達度50%		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	劇場演習Ⅷ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏・日下部 信	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	2021年10月23日と10月24日に行われる「音楽劇Shinran」の本番と、10月22日に行われるGP。 俳優として、またスタッフとして、音楽劇の本番を行う。		
到達目標	「音楽劇Shinran」の全幕を、土曜日2ステージと日曜日2ステージ、全4ステージ、俳優として又スタッフとして、上演する。		
学習成果の 評価基準	集中度、積極性、協調性を『受講態度』とする。 また、俳優として自分の個性を生かし、役柄や場面にあった演技ができる事、スタッフとしての確かな判断や動きが責任を持って出来る事を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	10月22日、GPに向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。	体調を整える。	
2.	10月22日、GP。 I 幕を上演する。	体調を整える。	
3.	10月22日、GP。 2 幕を上演する。終了後ダメ出し。小返し。	体調を整える。	
4.	10月23日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
5.	10月23日、本番。午前の部。 I 幕を上演する。	体調を整える。	
6.	10月23日、本番。午前の部。 2 幕を上演する。	体調を整える。	
7.	10月23日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
8.	10月23日、本番。午後の部。 I 幕を上演する。	体調を整える。	
9.	10月23日、本番。午後の部。 2 幕を上演する。終演後、ダメ出し。	体調を整える。	
10.	10月24日、本番。午前の部。 全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
11.	10月24日、本番。午前の部。 I 幕を上演する。	体調を整える。	
12.	10月24日、本番。午前の部。 2 幕を上演する。	体調を整える。	
13.	10月24日。 ダメ出し。午後の部に向けて全ての舞台機構をチェック。及びプリセット。客入れ。	体調を整える。	
14.	10月24日、本番。午後の部。 I 幕を上演する。	体調を整える。	
15.	10月24日、本番。午後の部。 2 幕を上演する。	体調を整える。	
教科書	「音楽劇Shinran」の台本と楽譜。		
参考書	なし。		
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50% 授業内課題到達度50%		
特記すべき 事 項			
質問・相談等 の 受 付	常時受け付ける。		

科 目	表現基礎	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	齋藤豊治	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	表現者としての土台作りである歪みのないニュートラルな身体の獲得と、豊かな音声言語について学びます。		
到達目標	身体・声・言葉を使って想いを他者に伝えることが出来る。表現の楽しさを発見し、豊かな身体表現と音声表現が獲得できる。		
学習成果の 評価基準	授業内課題に積極的に取り組み、自主性と協調性をもって受講しているかを「授業内課題」「受講態度」として評価します。 また学習到達度の確認として「レポート」を実施し点検評価します。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	演じるという事	五感の考察	
2.	人が立つという事 1	前回の復習	
3.	人が立つという事 2	立ち方の観察	
4.	人が歩くという事 1	前回の復習	
5.	人が歩くという事 2	歩き方の観察	
6.	緊張と緩和のバランス 1	前回の復習	
7.	緊張と緩和のバランス 2	前回の復習	
8.	緊張と緩和のバランス 3	前回の復習	
9.	緊張と緩和のバランス 4	前回の復習	
10.	身体のイメージ 1	イメージトレーニング	
11.	身体のイメージ 2	イメージトレーニング	
12.	身体のイメージ 3	イメージトレーニング	
13.	身体のイメージ 4	イメージトレーニング	
14.	前回までの振り返り	達成度点検	
15.	まとめ	目標設定	
教科書	プリントを配布		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（20%） 授業内課題（60%） レポート（20%）		
特記すべき 事項	トレーニングウェアで受講の事		
質問・相談 の 受 付	随時受付		

科 目	舞台表現法 I	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	いかなる表現もその大元となるのは「感情」である。その「感情」を表現するために、訓練された発声法が必要であり、肉体が必要である。この講座では基本となる感情の動きに焦点を合わせ舞台表現者としての基礎を学びます。		
到達目標	自己の肉体と声を知り、自分にしか出来ない自由な表現が出来るようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内課題において評価する。 ①ニュートラルに立ち、歩くことが出来る。 ②腹式呼吸で大きく発声することが出来る。 ③嘘のない感情表現をすることが出来る。 ④独創性を持ち、自由な発想で表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	発声法(1) (発声の仕組みを学ぶ)	ウォーミングアップ	
2.	発声法(2) (腹式呼吸について)	ウォーミングアップ	
3.	発声法(3) (身体の共鳴について)	ウォーミングアップ	
4.	肉体表現(1) (肉体コントロールとリラックス)	ウォーミングアップ・発声・リ ラックス	
5.	肉体表現(2) (動物を観察する)	ウォーミングアップ・発声・リ ラックス	
6.	肉体表現(3) (音楽に身を任せる)	ウォーミングアップ・発声・リ ラックス	
7.	感情表現(1) (感情の起こりを学ぶ)	自分の感情と向き合う	
8.	感情表現(2) (相手からもらう)	人物を観察する	
9.	感情表現(3) (衝動に身を任せる)	心を開放する	
10.	エチュード(1) (自由な発想と刺激と反応について学ぶ)	存在することを考える	
11.	エチュード(2) (想像の設定を信じる)	存在することを考える	
12.	エチュード(3) (相手からもらい、伝える)	存在することを考える	
13.	空間演技(1) (空間と自分との関係を学ぶ)	ウォーミングアップ・発声・リ ラックス	
14.	空間演技(2) (目に見えないものを表現する)	ウォーミングアップ・発声・リ ラックス	
15.	漫才・コント(1) (笑いについて考える)	プロの笑いを見る	
教科書	プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	授業態度 (30%) 授業内課題 (70%) 授業内課題発表時にコメントし、フィードバックします。		
特記すべき 事 項	1987年～2017年まで東京において俳優・演出家として数々の作品に出演し、演出する。 ジャージやスウェットなど動ける服装で受講のこと。		
質問・相談 の 受 付	随時可。		

科 目	舞台演習基礎 I	開講時期 履修方法	1 年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。 舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	本読み(1)	台本を読んでおく	
2.	本読み(2)	台本を分析する	
3.	本読み(3)	役の背景を考える	
4.	本読み(4)	時代背景を考える	
5.	テーブルトーク①	公演の目標を考える	
6.	テーブルトーク②	今の自分に足りないことを考える	
7.	テーブルトーク③	なりたい自分を想像する	
8.	テーブルトーク④	自分自身の到達目標を定める	
9.	立ち稽古(1)	台詞と感情を覚える	
10.	立ち稽古(2)	台詞と感情を覚える	
11.	立ち稽古(3)	台詞と感情を覚える	
12.	立ち稽古(4)	台詞と感情を覚える	
13.	立ち稽古(5)	立ち位置と相手との関係性を覚える	
14.	立ち稽古(6)	立ち位置と相手との関係性を覚える	
15.	立ち稽古(7)	立ち位置と相手との関係性を覚える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (50%) 公演目標達成度 (50%)		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談等 の 受 付	随時可。		

科 目	舞台演習基礎Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。舞台が出来るまでを基礎から学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	小道具作成 1	使用する小道具を抜き出す	
2.	小道具作成 2	小道具リストを作る	
3.	小道具作成 3	制作準備	
4.	小道具作成 4	制作準備	
5.	大道具作成 1	舞台図の把握	
6.	大道具作成 2	使用する道具の把握	
7.	大道具作成 3	作成準備	
8.	大道具作成 4	作成準備	
9.	大道具作成 5	作成準備	
10.	情報宣伝 1	宣伝ツール確認	
11.	情報宣伝 2	チラシ制作準備	
12.	情報宣伝 3	デザイン準備	
13.	情報宣伝 4	チケット・ポスターデザイン準備	
14.	舞台稽古 1	台詞を覚える	
15.	舞台稽古 2	台詞を覚える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (50%) 公演目標達成度 (50%)		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する		
質問・相談 の 受 付	随時可。		

科 目	舞台演習基礎Ⅲ	開講時期 履修方法	1 年前期集中 選択、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	演劇作品を通して舞台表現をゼロから創作していく。脚本、演出、照明、音響、衣裳、小道具、出演者、すべての創作活動はクリエイターたちとのコミュニケーションから放たれ、観客に伝達されていく。 舞台が出来るまでを基礎から発展まで学べる総合的な学びです。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	舞台装置の仕込み	仕込み図確認	
2.	リノリウム	安全確認	
3.	装置セットアップ	安全確認	
4.	安全確認	安全確認	
5.	吊りモノの仕込み	仕込み図確認	
6.	長尺合わせ	安全確認	
7.	吊りこみ・動作チェック	安全確認	
8.	照明仕込み	仕込み図確認	
9.	照明シュート 1	安全確認	
10.	照明シュート 2	安全確認	
11.	照明明かり作り 1	立ち位置確認	
12.	照明明かり作り 2	立ち位置確認	
13.	照明明かり作り 3	立ち位置確認	
14.	照明明かり作り 4	立ち位置確認	
15.	音響仕込み	仕込み図確認	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (50%) 公演目標達成度 (50%)		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談等 の 受 付	随時可。		

科 目	作家作品研究 I	開講時期 履修方法	1 年通年 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	演技理論、演技ワークショップを交えながら戯曲と日本語を有効的に学ぶ。 また、実践として、小規模の上演発表を行い、作品と演技の理解を深める。		
到達目標	戯曲・演技への取り組み方を習得し、作品や人物の考察を掘り下げることが出来る。		
学習成果の 評価基準	演技表現に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。 作品研究、人物考察の達成度を測るための「授業内課題」において70点を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	イントロダクション／学びのねらいと進め方について	シラバスを見ておく	
2.	コミュニケーションの定義について	配布資料を読んでおく	
3.	マップコミュニケーションと登場人物の背景について	前回の復習	
4.	演劇ワーク「バスケット」と「ジョハリの窓」について	前回の復習	
5.	対話の種類と「3つの輪」について	前回の復習	
6.	コミュニケーションの段階的成長について	前回の復習	
7.	語彙力と思考力の相関関係について	前回の復習	
8.	演劇ワーク「WA!」「ストーリーづくり」	前回の復習	
9.	演劇ワーク「母音ゼスチャー」	前回の復習	
10.	演劇ワーク「演技連鎖」「一枚の絵」	前回の復習	
11.	演劇ワーク「ある部屋」	前回の復習	
12.	戯曲「ブンナよ、木からおりてこい」	前回の復習	
13.	発声の分類とGAP構造について	前回の復習	
14.	意識の分散と演技の真実性について	前回の復習	
15.	知識と学習のまとめ	今までの学びを振り返る	
教科書			
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50%、授業内課題50%		
特記すべき 事 項	劇作家・演出家として20年以上の実務経験		
質問・相談 の 受 付	Classroom利用		

科 目	作家作品研究Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	日下部 信	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	演技理論、演技ワークショップを交えながら戯曲と日本語を有効的に学ぶ。 また、実践として、小規模の上演発表を行い、作品と演技の理解を深める。		
到達目標	戯曲・演技への取り組み方を習得し、作品や人物の考察を掘り下げることが出来る。		
学習成果の 評価基準	演技表現に関する積極的な取り組み、発表を「授業態度」の評価とする。 作品研究、人物考察の達成度を測るための「授業内課題」において70点を評価基準とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	イントロダクション／学びのねらいと進め方について	シラバスを見ておく	
2.	他者紹介と表現の性質について	作品情報を読む	
3.	作品Aの一場面を演じる	前回の復習	
4.	作品Aの一場面を稽古する	前回の復習	
5.	作品Aの一場面を発表する	前回の復習	
6.	作品Bの上演映像を観る1	作品情報を読む	
7.	作品Bの上演映像を観る2	作品情報を読む	
8.	作品Bの一場面を稽古する	前回の復習	
9.	作品Bの一場面を発表する	前回の復習	
10.	作品Bの一場面を検証する	前回の復習	
11.	作品Bの上演映像を観る1	作品情報を読む	
12.	作品Bの上演映像を観る2	作品情報を読む	
13.	作品Bの一場面を稽古する	前回の復習	
14.	作品Bの一場面を発表・検証する	前回の復習	
15.	知識と学習のまとめ	今までの学びを振り返る	
教科書			
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	受講態度50%、授業内課題50%		
特記すべき 事 項	劇作家・演出家として20年以上の実務経験		
質問・相談等 の 受 付	Classroom利用		

科 目	読書と豊かな人間性	開講時期 履修方法	1 年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	豊かな人間性を育てる読書生活のために、発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。また、「言葉」による表現で読書に親しむための実技を学ぶ。		
到達目標	発達段階に応じた読書の違いに振れ多様化する読書資料の活用ができるようになる。また、絵本の選定や読み聞かせの手法を学び人前で読み聞かせができるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標にしている、発達段階に応じた読書資料の活用の達成度及び絵本の読み聞かせの実技、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	読書の意義と目的について	なぜ読書をしなければならないのか考える	
2.	読書能力の発達について	さまざまなリテラシーについて考える	
3.	読書興味の発達について	発達段階によつての読書を考える。	
4.	読書興味の発達段階について	就学時までの読書について考える	
5.	読書興味の発達段階について	小学低学年についての読書を考える	
6.	読書興味の発達段階について	小学校高学年についての読書を考える	
7.	読書興味の発達段階について	中高校生以上の読書を考える	
8.	読書の導入的な指導	環境整備について考える	
9.	読書体験表現・交流について	自分の読書体験について考える	
10.	公共図書館と学校図書館の連携	公共図書館と学校図書館の連携について考える	
11.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（1）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
12.	絵本の選定、絵本の絵を読み解くなど、内容について深く学ぶことができる（理論）（2）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
13.	絵本の読み聞かせを実演し、読み手と聞き手の関係性を学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う	
14.	絵本の読み聞かせを実演し、絵本のめくり方、間の取り方、終わり方などを学ぶ（実技）	読み手と聞き手（双方）で読み聞かせを行う	
15.	授業総括	講義を振り返り人間性を育てる読書について考える	
教科書	『新版読書と豊かな人間性』朝比奈大作ほか／放送大学教育振興会		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10％）定期試験（60％）授業内発表（30％） 到達度確認テストを実施後、フィールドバックします。		
特記すべき 事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています		
質問・相談等 の受付			

科 目	基礎演習 I	開講時期 履修方法	1 年後期 必修、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1 年次の中間発表演劇公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、演劇を上演します。 戯曲分析から始まり、本読み、立ち稽古、通し稽古、本番までの過程を学びます。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	本読み(1)	台本を読んでおく	
2.	本読み(2)	台本を析する	
3.	本読み(3)	台詞を覚える	
4.	本読み(4)	台詞を覚える	
5.	立ち稽古(1)	香盤表を確認する	
6.	立ち稽古(2)	ミザンスを確認する	
7.	立ち稽古(3)	ミザンスを確認する	
8.	立ち稽古(4)	ミザンスを確認する	
9.	立ち稽古 (5)	ミザンスを確認する	
10.	立ち稽古 (6)	ミザンスを確認する	
11.	通し稽古(1)	演出ノートを確認	
12.	通し稽古(2)	演出ノートを確認	
13.	通し稽古(3)	演出ノートを確認	
14.	衣装合わせ(1)	役の衣裳を考える	
15.	衣装合わせ(2)	着こなしを考える	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度 (50%) 公演目標達成度 (50%)		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談 の 受 付	随時可。		

科 目	基礎演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	河本章宏	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1年次中間発表演劇公演。前期から学んできた様々な表現形態や技術の集大成として、演劇を上演します。戯曲分析から始まり、本読み、立ち稽古、通し稽古、本番までの過程を学びます。		
到達目標	表現者としての知識・技能の習得を通し、自らの課題を発見することができる。		
学習成果の 評価基準	公演目標達成度で評価します。 (1)公演に向けて明確な目標を立てる。 (2)仲間とコミュニケーションを取ることが出来る。 (3)自由な発想で表現することが出来る。 (4)演出家の意図を汲み表現することが出来る。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	照明合わせ(1)	立ち位置の確認	
2.	照明合わせ(2)	照明に入る	
3.	照明合わせ(3)	照明に入る	
4.	舞台稽古(1)	役と役の交流を考える（第一段階）	
5.	舞台稽古(2)	役と役の交流を考える（第二段階）	
6.	舞台稽古(3)	役と役の交流を考える（第三段階）	
7.	舞台稽古(4)	役と役の交流を考える（第四段階）	
8.	舞台稽古(5)	役と役の交流を考える（第五段階）	
9.	舞台稽古(6)	役と役の交流を考える（第六段階）	
10.	舞台稽古(7)	役と役の交流を考える（第七段階）	
11.	上演(1)	成果発表後ノートをつける	
12.	上演(2)	ノートを元に修正する	
13.	上演(3)	ノートを元に修正する	
14.	上演(4)	ノートを元に修正する	
15.	まとめ	振り返り	
教科書	上演台本		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（50％）公演目標達成度（50％）		
特記すべき 事項	1987年～2017年東京で俳優、演出家として数々の作品に出演し、演出する。		
質問・相談等 の受付	随時可。		